

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000986		
法人名	ミツモトハウス株式会社		
事業所名	あすなるの家		
所在地	小樽市幸2丁目22番3号 (電話) 0134-21-6800		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成21年1月9日

【情報提供票より】 (20年10月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	16人 非常勤 0人 常勤換算 14.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	光熱水費 18,000円 暖房費(10～4月)10,000円
敷金	有()円・(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 (無)		有りの場合 償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100円		

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.4歳	最低	74歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋医院、おたるイヤクリニック、兵藤歯科、三ッ山病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、四季折々が身近に感じられる自然豊かな高台に位置しています。運営者にとっては2棟目のグループホームであり、温かく明るい家庭的な環境の中で、精神的に安定した心安らかな生活が送れるよう支援することを目標に、平成18年に開設され、職員も思いを共有し、日常のケアサービスに取り組んでいます。地下には小規模多機能施設が併設され、運営法人内での交流も盛んで「親戚づきあい」の関係が築かれています。ホーム内での人間関係も良好で、地域の方々とも交流が年々深まり、地域に根ざしたホームになっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善事項「職員の、運営法人内外の研修参加拡大」「重度化や終末期の指針の共有」「災害対策の強化」は出来得る範囲での取り組みは見られましたが、まだ十分とはいえないため、今後の取り組みを期待します。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解し、それぞれの分担で自己評価に取り組み、その中での改善点などを今後の取り組みとしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヵ月毎に開催し「ホームの活動状況」「ヒヤリハットの事故報告」「レク活動」「地域密着型サービスの利用に関する諸問題」などを話し合い、内部・外部評価も公表し、その中での取り組み事項の検討も行なわれ、具体的な改善を図っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの要望、意見に関しては、来訪時や電話、運営推進会議の中で把握し、それらに適切に対応し、運営に活かしています。第三者機関の窓口も伝えており、家族の安心を得ています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会長の深い理解のもと、町内会の回覧に「あすなる便り」を入れて、地域の方々に見ていただいたり、ホームで飼っている小動物を通し、近所の方々や子ども達と交流を深めています。町内会の行事やホームの行事には相互の参加があるなど、地域に溶け込み、繋がりが深まっています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に運営者と職員で意見を出し合い、地域社会の中で信頼され、触れあいのできるホームを目指そうとの熱い理念のもと、日々のケアサービスに取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関、各ユニットに掲示し、ミーティングでさらに意義を確認し、実践に向けての取り組みが図られています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会長の深い理解のもと、町内会の回覧に「あすなろ便り」を入れて、地域の方々に見ていただいたり、ホームで飼っている小動物を通し、近所の方々や子ども達との交流を深めています。町内会の行事やホームでの行事には相互の参加があったりと、地域に溶け込み、繋がりが深まっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、自己評価はそれぞれの分担で取り組み、その中での検討事項や外部評価の改善事項も踏まえて、話し合いを重ねサービスの質の向上に活かしています。		

小樽市 あすなるの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月毎に開催し、「ホームの活動状況」「ヒヤリハット事故の内容報告」「レク活動」「地域密着型サービスの利用に関する諸問題」などを話し合い、内部・外部評価も公表し、その中での取り組み事項の検討も行なわれ、具体的な改善を図っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告書を提出する際や、電話などでホームの運営に関して助言をいただき、サービスの質の向上に向けて取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの活動状況や一人ひとりの心身の状態、病院の検査結果、職員の異動などを「あすなる便り」で詳細に伝えています。金銭出納は15日頃に郵便で送付されており、家族からの安心を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方々からの要望・意見は、ホームへの来訪時や電話、また、運営推進会議の中でも家族代表の意向を把握し、ホームの運営に活かしています。第三者機関の窓口も伝えています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営法人内の異動では、職員と利用者が合同行事などで馴染みの関係にあり、混乱は見られませんが、止むを得ず離職が発生した場合は、利用者の不安を解消するため、管理者がフォローしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を図るため、採用時の研修、2ヵ月毎に内部研修の実施、また、習熟度別による外部研修への参加を積極的に促しています。研修費はホーム負担になっています。	○	個別に外部研修に参加し、スキルアップを図っている職員もいますが、今後は、職員からの自発的参加を募りたい意向ですので、取り組みに期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市認知症高齢者GH連絡協議会、北海道GH協議会の研修に加え、管理者や介護支援専門員の人的ネットワークにより、ほかの業者との情報交換を密接にし、サービスの質の向上に向けて実践しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを利用する際には、管理者が家庭、施設、病院に出向いて生活歴を情報収集し、また、利用者や家族の方々にホームを見学していただき、納得した上で徐々に馴染みの関係ができるよう支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が介護する一方ではなく、利用者の一人ひとりの生活歴を把握し、その中で経験を伝授していただいたり、労りの言葉かけがあったりと信頼関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話に耳を傾けたり、表情や身振りで、一人ひとりの要望・意見を汲み取り、安心して暮らせる支援を心がけています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の身体の状態、希望及び環境を踏まえ、関係者からの情報をもとに具体的なサービスの介護計画を作成し、利用者や家族の方々から同意をいただいています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的には、3ヵ月毎の見直しですが、利用者の身体の状態変化や介護計画の実施状況を把握し、必要に応じて見直しが行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助、外泊への送迎、理・美容室への送迎、外出行事、小規模多機能施設での入浴・リハビリなど、柔軟な支援を行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の心身の状態に異変、そのほか緊急事態が発生したときには、かかりつけ医や24時間体制の協力医療機関と受診・往診などで連携を取り、適切な措置を施しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、ホームで看取りの意思は十分にあるものの、医療行為が必要となった場合は、往診、その後は入院が現状です。家族の方々との話し合いは行なわれています。	○	ホームとして、利用者や家族の方々と看取りに向けての具体的な指針の共有には、まだ至っていませんので、今後の取り組みに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	面会簿もカード方式にするなど、個人情報が尊重され、プライバシーを保ち尊厳を維持する支援をしています。また、利用者の個人情報使用時には同意書をいただいています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを優先し、利用者の持てる力を最大限発揮でき、快適な生活が送れるよう支援しています。		

小樽市 あすなろの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月・木曜日は自由献立になっており、利用者の希望を最優先にしています。行事食は、利用者の楽しみごとの一つになっています。調理や後片づけなど利用者と職員は一緒に作業し、静かな曲が流れている中で、職員のさり気ない介助を受けながら、食事をともにしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	火・金曜日の午前9時30分～11時30分、午後1時30分～3時30分の中で時間帯は利用者の希望に沿い、同性介助の入浴支援をしています。要望により決められた曜日以外も入浴は可能になっており、清潔が保持されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の心身の状態と有する能力に応じ、床のモップがけ、新聞整理、食器洗い、畑作業、収穫物で食卓を彩ったり、ホームでのレク活動や外出行事が利用者の大きな楽しみとなっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向に沿って、散歩や買物、ドライブ、小動物との触れあい、畑作業のかかわりなどで外気に触れ、五感を刺激できる取り組みをしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、職員の注意深い見守りの中、利用者は自由に外出していますが、利用者の状態により、ユニットの入口は午後5時30分に鍵をかけることがあります。、夜間9時から翌朝6時までは防犯上施錠しています。		

小樽市 あすなろの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署主催の災害訓練に職員のみ参加、ホームは日中想定での避難訓練をしています。町内会の連絡ルートの確保や地域の協力もいただけています。	○	公園が避難場所になっていますが、室内の避難場所の確保、ならびに夜間想定での避難訓練を、近隣の方々との実施に向けての取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導により一日の水分量は1,500cc、カロリーは2,000とし、栄養バランスを考えた献立になっています。摂取量は記録に残し、職員全員の共有になっており、健康管理は適切に行なわれています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場として快適性や安全性を確保し、その中で利用者はソファーやテーブルなどで寛いでいます。旬の食材を取り入れた食事や花々で季節感を味わっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年慣れ親しんだ家具や調度品などを配置し、安定した利用者本位の生活が維持されています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。